

♪強い信念のもと先手を打つ 一鋳造関連メーカーが挑戦する 環境への取組みとは

環境負荷の低減や地域貢献は、本業に余力がある企業が取り組むものとされた時代から、取り組まなければ企業自身が淘汰される時代になっている。大企業と比べ経営資源が不足しがちな中小企業にとっては簡単ではないが、工夫を重ね取り組んでいる企業もある。

About Us

愛知県西三河地区に本社を構える榊原工業。 愛知県西尾市と豊田市に加え、富山県にも工場を持つ鋳造関連メーカーで、鋳造品の中に必要な空洞を作るための砂型である「中子」を手掛ける。各工場は多彩な中子製造機を保有し、大型の中子から複雑形状の中子までさまざまな製品をつくるノウハウと技術を持ち、取引先の多様な要望に応えている。



大型の中子から複雑形状の中子まで、さまざまな製品をつくるノウハウと技術を持つ

● 地域から信頼される企業に

榊原工業は、自動車部品や重機部品などの鋳造品に使う中子メーカーとして1966年に創業。価格競争が激しい業界で、常に競争力を保ってきた背景にはぶれない経営理念がある。

「お客様・地域に信頼される企業を目指す ことを考えた時、そこにすべてがある」。

先代社長の口癖でもあった経営理念を 榊原社長は忘れたことがない。地域にどうす れば溶け込めて、信頼されるか。その仕掛け をいくつも用意している。

2022年10月10日に静岡県掛川市で開かれた、中学生の軟式野球大会「オールジャパンベースボール中等部2022全国大会」。決勝戦では一色 SK クラブ(愛知県西尾市)が久留米スターズ(東京都東久留米市)を破り、日本ーに輝いた。一色 SK クラブを支援しているのが榊原工業だ。榊原勝社長が軟式チームを組織し、グランドも自社で整備した。

この軟式野球チームの支援も地域との関係を物語る。

中小企業にとっていかに人材を確保する かは少子高齢化でこれまで以上に課題になっ ている。とはいえ、大企業に比べて企業の 認知度は低い。「地域活性化の一環として、 野球が好きな中学生の受け皿をつくる。同時 に自社を知ってもらい、就職時の選択肢にし てもらう。実際、同クラブに所属していた部員 が関連会社含め数名が入社しています」(榊原 社長)。

また、一部の工場を災害時緊急避難場所と して開放しているほか、会社の敷地内でウサギ やヒツジ、ポニーを飼育して、地域の人たちに 憩いの場を提供してきた。

地域と社会をつなぎ、うまく循環させる仕組 みをつくる。仕組みづくりこそが榊原工業の 強みであり、これは経営全体に見ることがで きる。

🧢 原動力は危機感

父親でもあった先代社長は亡くなる直前に 「地域から信頼されるために何がリスクか考 えなさい」と言葉を経営陣に託した。

榊原社長が今、自社の大きなリスクと考え るのは環境と安全だ。

「私たちは今3,200種類の中子型を保有しています。そのすべての製品に"CO2排出タグ"を付け、納品先に結果を報告しています。つまり『私たちは製品とともに、お客さまに対して



これだけのCO2を一緒に納品してしまっている』 と現状をお伝えしているわけです。」

「『そこまでするんですか』と驚かれることも少なくない」と語る取組みの原動力は危機感だ。「いいものを安くつくるのは当たり前。他に何ができるかを考えないと生き残れません。環境対策は効果が表れるまでに時間がかかるだけに取組みは急務です」。

榊原社長の本気が垣間見えるのがSBT(※) 推進会議だ。

同社は SBT 認定を 2021年1月に取得。 2030年に温室効果ガスの18年比50.4% 削減を目標に定めた。すでに目標に向けて、 一部工場内の照明の LED への切り替えや 太陽光発電設備の設置、CO2フリー電力の 導入を一部の拠点で始めている。

※SBT・・パリ協定が定める水準と整合した、5~15年先を 目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標。

月一回開く推進会議は目標達成の具体策 を協議する場だ。社員のみならず、金融機関、 取引先、時には同業者も参加している。

「中小企業の取組みの多くは社長の『思い』で終わりがちです。推進会議は私の『思い』を会社の『仕組み』にしていく場です。実際、当初は社内の温度は低く、『なんでこんなことをするのだろう』という雰囲気でした。ただ、推進会議を続けているうちに社外で取組みが評判になり、社外で話題になるにつれて、社員の目の色も少しずつ変わってきたと感じました」。

工場では全ての成型機に㎡(リューベ)メーター及び電力メーターを付けてCO2排出量を実測値ベースで可視化する。また、工場では全ての成型機にメーターを付けてCO2排出量を実測値ベースで可視化する。「大企業ならばAIを使うのかもしれませんが、当社は人海戦術です。数値化し確認させることでCO2について誰もが意識するようになります」。



各成型機に付けられたメーター



「自分の子どもが入社したいと思える会社づくり」をテーマに、ダイバーシティ経営を目指す

同社はScope1(直接排出)・Scope2(他社から購入した電気・熱・蒸気による間接排出)の排出量を把握することに加え、今後はScope3(その他の間接排出)の排出量の見える化・精度向上を推進。カテゴリー1~15の網羅を目指して当面はカテゴリー1~7に係る排出量の見える化に取り組む予定だ(2022年度目標)。

第三者の評価が「仕組み」をつくる

こうした仕組みづくりの成果を確認する手段として榊原社長が「非常に有効」と語るのが商工中金のポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)だ。事業のサステナビリティ(持続可能性)を評価したうえで、融資する枠組みだ。融資期間中に環境負荷低減などをさらに高める目標を設定し、達成に向けて商工中金が伴走支援する。

「何に取り組んでどのような結果につながったかの履歴が『見える化』される効果は、非常に大きいですね。第三者の目で評価してもらえて、公表もされます」。



温室効果ガス削減の達成等が目標設定 (KPI)として盛り込まれており、PIFが同社のSDGsを回すエンジンになりつつある。

企業にとって環境と並び大きなリスクになっているのが安全だ。PIFにもBCPの定期的な見直しを目標として定めている。

同社は以前からBCPには積極的で、大規模災害で被災した際の代替生産拠点となる富山工場の稼働にあわせて仕組みづくりに着手。2016年には事業継続に積極的に取り組んでいる企業を認証する「レジリエンス認証」を全国の製造業で2番目に取得した。社内にワーキンググループを設けて、月に一回会合を開き、毎年6月1日付で全社員へ最新版を冊子で配布するなどBCPを毎年見直している。

榊原社長は「企業を取り巻くリスクは複雑かつ大きくなっています。ただ、中小企業にとって対応は簡単ではありません」とも語る。

「やはり、資金が大きな障壁になります。 『榊原さんは財務に余裕があるからできる のでは』ともいわれてきましたが、正直、余 裕は全くありません。地域やお客様との共生、 そして自社の発展のためには実施していか なければならない、という信念でやってきま した。そうした時に、取組みに関心をもって いただいた商工中金さんの存在は非常に大 きかったです。全国には意欲はあるけれども 資金の問題で悩んでいる中小企業はたくさ んいるはずです。ぜひ、力添えをしていただ きたいです」。

2

「先進的な取組みをPR」 商工中金 名古屋支店 八木 剛志さん

榊原工業さんのSBT推進会議に参加させていただくこと になり、対話を重ねる中で環境対応には資金が必要という お話になりました。サステナブル経営に対する高度な取組 みは知っていましたので、その上で私たちに何ができるかと 社内で話し合いを重ね、PIFを提案いたしました。高い意識 での取組みがPRになる点や、年1回発行する環境報告書の 中でも必要資金をPIFで確保していることが公表できる点を 特に喜んでいただきました。

これまでは推進会議の中で環境対応について学ぶことば かりでしたが、これからは私からも環境対応に対して発信 できるように伴走していきたいです(談)。



「環境について学び、ともに発信していきたい」 と八木さん(右)

Information



榊原工業株式会社 [本社所在地] 〒444-0402 愛知県西尾市一色町大塚赤西18-3 0563-72-7454 https://sk-shell.jp/



榊原工業、商工中金の取り組みをさらに知りたい方に

日刊工業新聞社の運営するニュースサイト「ニュースイッチ」や、動画で榊原工業の取り組みをさらに深堀しています。 詳しくは下記からご確認ください。



▶ YouTube

商工中金公式チャンネル PIF(ポジティブ・インパクト・ファイナンス)とは?

PIFについての説明を わかりやすくまとめています。





商工中金公式チャンネル PIF支援事例 愛知県 榊原工業

榊原工業の事例を紹介しています。





日刊工業新聞社ウェブサイト 'ニュースイッチにも"掲載中!

ュースイッチとは、「ものづ くり」「テクノロジー」「キャリ ア」を中心とした経済・産業のニュースをより親しみやす く発信するサイトです。



企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。

安心と豊かさを生みだすパートナーとして、ともに考え、ともに創り、ともに変わりつづける。

日本の未来を担う中小企業の皆さまとこの変わりゆく時代を 乗り越えるため、私たちは「パーパス」を作りました。



https://www.shokochukin.co.jp/

持続可能な未来

ニュースイッチ×商工中金

神原工業が描く、vol.2 2023年4月28日発行 [編集]日刊工業新聞社 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL:03-5644-7000 [発行] 株式会社商工組合中央金庫 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-10-17 TEL:03-3272-6111

